



衣服の着用と手入れ

対象

活用可能な単元

小学3・4年生

小学5年生

小学6年生

家庭

つくろう！さわやか生活
(衣服の手入れをしよう)

学習指導要領上の位置づけ

平成23年度施行の小学校学習指導要領家庭における「C 快適な衣服と住まい」の(1)衣服の着用と手入れ「イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。」の項目に該当する。

同解説では「『洗濯ができる』ということは、洗濯の必要性や日常着の洗濯に必要な洗剤、用具、洗いなどが分かり、洗濯ができることである。洗濯は洗濯物や汚れの点検、洗う、すすぐ、絞る、干すなどの基本的な作業から成り立っている。身近な衣服などの手洗いを通して、それぞれの作業の必要性が分かり、適切な方法を考えて洗濯することができるようにする。」と記されている。

単元のポイント

現代の私たちの生活では、電気洗濯機が普及しており、家庭でも手洗いをするのはほとんどない。子どもたちも、手洗いの経験はかなり乏しく、洗剤の使い方や使用量について考えることはあまりない。

家庭科では、手洗いを中心として洗濯の基本について学習する。そこで、洗濯の一連の技能を習得するとともに、身近な環境への影響を考えた洗剤の量などを中心に扱うようにする。

- ・上手に洗濯するために、洗濯物の種類・洗剤の量・水の量・用具類について理解させる。
- ・洗濯の手順を理解し、技能を身に付けさせる。
- ・身近な環境への影響を考え、適量の洗剤を使って洗濯をすることの大切さに気付かせる。

本時のねらい

- ・水環境に対しての影響を考えながら、適量の洗剤を使って洗濯をすることができる。

授業の流れ

1時間
扱い

流れ	学習活動 (予想される児童の反応)	指導上の留意点	資料
導入 (15分)	1 洗濯の手順や洗濯に必要な用具を確認する。 ・身支度をしてから、用具を準備して洗剤液を作る。次に洗濯物を洗ってすすいで、絞って、干す。最後に片付けをする。 ・必要な用具は、洗剤、たらい、洗濯板物干し竿。 2 洗剤液の作り方を考えよう。 ・洗剤の容器に記されている通りに、水でうすめて作る。 ・洗剤液がうすいと汚れが落ちないし、濃すぎても汚れの落ち方に変わりはない。また、濃い洗剤液を流すと環境に良くないから。	●手順が分かるように、フラッシュカードを提示する。 ●なぜ規定量の洗剤で液を作るのか、理由も考えさせる。 ●適量で洗った物と濃い液で洗った物を事前に用意すると、効果的である。	●フラッシュカード(手順を示したカード) ●教材(p.19)川の汚染の写真
正しい洗剤液で、洗濯をしよう			
展開 (25分)	3 正しく洗剤液を作って、洗濯をする。 ・自分の洗濯物を用意し、洗濯の実習をする。 身支度→用具準備→洗剤液作り→洗う→絞る(うまく絞れない場合は、電気洗濯機の脱水機能を活用しても良い)→干す→片付け	●計量カップなどを活用して、正しく洗剤液を作らせる。 ●汚れている部分は、もみ洗いをさせる。 ●すすぎは、ためすすぎをさせるが、洗濯物に洗剤が残らないように、しっかりすすがせる。	●計量カップ ●計量スプーン
まとめ (5分)	4 手洗いの洗濯を経験して、考えたことを発表する。 ●普段は電気洗濯機で洗っているのに、手洗いをして大変だと思った。 ●洗剤の量を自分で考えたことがなかったから、これからはきちんと計りたい。	●4年生社会で学習したことを想起させ、洗濯の排水は、下水管を通り下水処理場で、処理されることを確認させる。	●下水処理場の写真 ●教材(p.53)下水管に流してはいけないものは何でしょう？

評価規準

- 適量の洗剤を使って正しく洗剤液を作り、環境に配慮した洗濯をすることができる。